ocuac news NO.18

市大山岳会ニュース
1996.2.15
大阪市立大学山岳会

またまた紙面が変わってしつれいします…
震災から１年、お見舞い申し上げます

10年ぶりの平年並みの積雪だとのこと、みなさま雪に埋もれてますか？ラッセル（？）、アイスクライミング、スキーにスノーボード、短い雪の季節のあいだ思いっきりENJOYしちゃいましょう！　というわけで山行記録などたくさん載せたいのですが、残念ながら雪にまみれてきたのは1つだけです。わたしこれから行くよっていう方！いいですねエ。ぜんぜん予定のないそこの貴方！！負けずにどんどん計画たてましょう。

✪その山行というのは私矢倉も参加して参りました。計画ではブナ立尾根を登って烏帽子岳・南沢岳から東沢出合に下り北アルプスの秘境赤牛岳から笠ヶ岳まで縦走するというものでしたが、まあなんというか予備日が不足で途中で下りちゃいました。 ああ笠の遠かったこと。あと１日余裕があったらなあ。
メンバー：尾形達也、矢倉睦、吉元謙介（現役）

正月の山行記録　　吉元謙介

紙面の無駄ですので、早いこと本文に移るべきかと思うのでありますが、ちょっと不平を述べさせていただくのであります。だいたい僕に山行記録を書けというのが無理な話でありまして、皆さんがこれを読んで何か誤解をなさったとしても、おおざっぱ人間オブザイヤーに輝いた僕にこのようなことを任せた尾形さんの責任なのであります。ということで、週末ゲレンデクライマーに憧れて、アプローチは１時間以内という岩場が大好きなこのミーハー吉元謙介がレーションのあまりのお菓子をつまみながら牛乳で晩酌をしつつ、試験前の貴重な時間を割いて（うそ）、正月山行の記録を書かせていただきます。

12月29日（金）曇のち雪

昨日出発の大阪駅で、当初参加予定だった中井さんが体調不良によりこの山行に参加できなくなったということを聞いて、ブルドーザーを１台失ったようなショックを受けてる暇もなく、いつのまにやら曇天の大町駅にやってきた。そういえばもう正月も近いもので、たくさんの登山者の群にタクシーパイロットが客取りアタックを繰り広げる中、師走のあわただしさを感じつつ我々はコンビニでのんびりと朝飯の買い出しをして、七倉行きのタクシーに乗り込んだ。七倉の登山補導所に計画書を提出して、尾形さんがいろいろと注意を受けているなか僕はカニパンとその付属品を矢倉さんから受け取った。そこから高瀬ダムまでは林道歩き、いつも林道歩きでは大声で歌う歌も雪崩を引き起こしてはまずいので軽い鼻歌程度にして、そろそろレパートリーも尽きる頃高瀬ダムについ

た。そこからキタカマに向かう多くのパーティーと別れて我々だけの山行が始まった。トンネルを出たところの吊橋からいきなりの輪カンを着けてのラッセルである。このミーハー吉元謙介にとってはまさに「うげー」の世界であり、「なんでオレこんなことしとんねん」なのである。後ろから単独行の人がついてきているはずだが、なかなか追いついてこないし、やっと追いついたかと思ったら3分間だけラッセルしてその後姿を見ることもなかった。この予定では2,300m辺りまで行くことになっていたが、雪が深くて思うように進めず、2,000m付近で幕営した。中井さん不参加の影響がいきなり出てしまったわけである。

12月30日（土）雪

朝一番からラッセルである。ラッセル、ラッセル、ラッセル。ブナ立尾根のラッセル。ときに落とし穴に落ちながらのラッセル。急登のラッセル。それにしてもラッセルという言葉の響きはなんて美しいのだろうとか思いながらラッセルしているといつのまにか裏銀座の稜線にたどり着いた。その日は風当たりの弱い稜線直下の雪田に幕営。もう雪なんてだいっきらい。

12月31日（日）晴

朝テントを出ると朝日を浴びた美しい裏銀座の山々が眼にはいった。尾形さんは写真を撮りまくっているが、僕のカメラは電池が冷えてしまって使えなくなっている。日の出を見て「うわっ、ラス日の出や」とか言いながら稜線にて入山以来始めて輪カンをはずす。烏帽子岳を巻いて南沢岳へと向かう。南沢岳も基部を巻きつつ山頂直下からダイレクトに雪壁を登って山頂をめざすことになった。またまたラッセルである。傾斜がきついので全力でラッセルをしているのにほとんど前に進めない。1人2回ずつトップに立って最後は尾形さんが雪庇になりかけの雪壁を乗越して山頂に至る。その様子を見て僕が「カッコええ」とか言うとお調子者の尾形さんは山頂に飛び出ると「ウォー」とか叫び出した。ペミカン袋を匂って恍惚の表情を浮かべたりとつくづく変な人だと思う。南沢尾根を下降し、途中から南西に伸びる尾根に移って、ひたすら落とし穴と格闘しつつ下降する。途中懸垂下降をまじえて結局時間切れで奥黒部ヒュッテにたどり着かずに1,720m付近で幕営。その日僕はテントの中でスーパーやぶへび状態に陥り泣きそうになった（うちわネタ）。

1月1日（月）曇のち晴

テントサイトから下り始めて1ピッチも行かないうちに東沢に降り立った。東沢にかかる橋につもった2mに及ぶ雪をエンピでラッセルしつつ東沢の水を汲んで久しぶりに水をたっぷり飲む。楽しい一時の後は再びラッセル。夏道に近いと思われるところを読売新道に取り付く。この頃には晴れ間も見えてきて、裏銀座の稜線の片隅から出た一足遅い初日の出を拝む。さすが元旦、よいこと続きだ。ところがこのとき冬休みの課題のレポートのことを思い出して一気にブルーな気分になる。気を取り直し「じぇい」とばかりにラッセルをして順調に高度を稼いで森林限界近くに幕営した。それにしても尾形さんのテントサイトメーキングの技術はすごいと思う。毎日が快適なテントサイトで安眠できる。夜中テントを出て煙草を吸いつつ小便をしたが、月明かりに照らされた読売新道の雪稜がとても美しい。明日の天気は最高だ、と確信する。

1月2日（火）ど快晴

テントを出ると最高の天気だった。快晴、無風、新雪さらさら、てな感じである。このまま天気が続いてほしい、「がんばれ高気圧」なのである。しかし昨晩、こんなに美しいところに僕のようなものが踏み込んでもよいのだろうかと思わせた雪稜は、足を踏み込んだとたんにいまいましい雪のトンネルに変わる。1ピッチ、交代でラッセルをすると森林限界までやってきた。ここで始めて今山行のメインの赤牛岳の姿を見る。遠い、地図を広げて見るともっと遠い。暑くてもうやってられませんわってな感じであるので皆さんヤッケを脱いで歩き出す。森林限界も過ぎてふわふわ歩いていると2,500mくらいでなんとなくクラストしていたり夏道が露出しているところもあるので、この山行始めてアイゼンを着けて歩き出す。かと思うと赤牛岳手前ではまたずぼずぼと雪に足が取られたりする。ここでアイゼン輪カンという技を使おうと言うことになるが、僕の靴は大きすぎてアイゼンと輪カンの同居を許さない。あきらめて一人先行する。尾形さんがその後に続き、矢倉さんはというと指示が徹底していなくて輪カンのみでやってきた。矢倉さんの輪カンにはびっくりしたものの、何事もなく結構あっけなく頂上に登ってしまった。この山行メインの山頂である。うーん、ながめよろし、それだけ。槍カッコええ、それだけ。水晶岳遠い、グゲゲゲゲ。その日は結局水晶

岳を越えることができずに2,800m地点（温泉沢の頭の手前）にテントサイトをつくって幕営。冬山でこんなに良い天気に恵まれるなんてなんてついているの、なんて思いながら天気図を描くと寒冷前線を引き連れた低気圧が・・・そんなの無視して消しゴムで消してしまえ、なのである。

１月３日（水）快晴のち晴のち曇のち吹雪

今日も快晴、一気に双六まで行ってしまえってな感じなのであるが、なんとも朝から風が強い。ときどきヨレってこけそうになったりする。朝焼けの水晶岳の写真を撮るのもつかの間、いつのまにか雲が空一面に広がり出す。やばいやばいこのままでは山頂で展望を拝むことができない、と僕は先を急いで一人先行する。水晶岳の南面の雪壁と岩稜をエッチラオッチラ登って三角点ピークに達する。待つこと20分弱、尾形さんと矢倉さんもやってくる。その間僕はシェルターを掘って平和なスタイルで待っていたが、矢倉さんは１度転がって一回転したらしい。回転するのが得意なようだ。その後も僕が先行し、先を急ぐが、水晶岳山頂でセルフポートレートを撮ろうとして、置いたカメラがふわっと浮いたりこわい思いもした。山頂からはトレースもあり、岩稜を進む。１回長い雪壁のクライムダウンを経て風の強い中を耐風姿勢を崩さずに歩く。やっとの思いで水晶小屋に着くが期待していた冬期小屋の扉が開かずに影に入って休む。そのうちじっとしていては寒いのでうろうろしているがときどき風に吹かれてよろめいたりした。待つのはホントに長い。40分弱だったが、１時間以上も待ったような気がする。やっと尾形さんたちもやってきた。何とか冬期小屋を開けようと悪戦苦闘するが、結局風の弱いところに要塞のようなテントサイトを作って幕営。この日の強風で「今日は凍傷日和だ」と喜んでいた尾形さんは自ら右頬に凍傷を負ってお手本を見せる。というのも僕が目出帽を返し忘れていたせい。ごめんなさい。この日の夜、テントと外張りの間に雪が吹き込み、はしっこに寝ていた僕に雪が積もっていた。

１月４日（木）雪のち曇のち晴

この日は風が強いので沈。昼からはレーションを賭けてのしりとり大会をする。僕は惨敗。天気図を描くと大陸から低気圧が迫ってきており、竹村新道から撤退することに決定。外に出て小便をすると風向きを読み違えてズボンにかかる。青空はきれいなのにシュラフと心は湿りがちなのであります。

１月５日（金）晴

この日は朝起きたときから何か調子がおかしい僕でありました。体は気怠いし、頭は重い。撤退開始とばかりに水晶小屋の前から裏銀座の稜線に向かって、風邪を引いちゃったかなとか思いながらふらふら歩いていると、東沢乗越に下る途中でほんのちょっとしたはずみで平衡感覚を無くしてしまい東沢側に２ｍくらい墜落、そのままころころと３ｍくらい転がって止まった。何事もなかったが、あと一段落ちると「やばいっすー」てなことになったかもしれない。尾形さんはヘリコプターに乗り損ねたと言って悔しがる。風邪を引いているからと集中力を欠いてポテポテ歩いていたことについて反省。真砂岳を直上して竹村新道を下り出す。夏道が露出した崩壊気味のいやらしい道を歩いてひたすら高度を下げる。森林限界に突入してまたまた輪カンを着けて湯俣岳に登り返す。この日は2,000mより少し下でテントを張る。明日は久しぶりの下界だ。撤退とはいえおもしろい山行だった。最後の煙草に感慨深げに火をつける。

１月６日（土）曇

結局昨日から道を間違えていたらしく、いやらしい樹林の中を下ることになる。結果的には高瀬川を大幅にショートカットすることとなった。ラッキー。高瀬ダムのダム湖のほとりを歩き、スタート地点の高瀬ダムに帰ってきた。このあと葛温泉までいやになるほど車道を歩き、いやになるほど温泉に浸かって大町に下山した。

この山行はなんともマイナー＆ラッセルなもので、ミーハー吉元謙介に合わないものでありました。しかし、非常に楽しくてよろしかったです。マイナーな赤牛岳に登れたのもよかったです。結局撤退ということになりましたし、30座目の百名山はまたもお預けになっちゃうし、この正月には新日本プロレスの武藤敬二がＵＷＦインターの高田延彦に負けちゃうという悲しい出来事もあって、いまいちの年明けなのですが、おもしろい山行に参加させていただきどうもありがとうございました。来年は現役部員による企画で今回のようなマイナーな山でラッセリーなおもしろい正月山行を行いたいと思うのであります。でもやっぱり八ヶ岳でアイスクライミングもやってみたかったりす

るのでありまして、ミーハー度は下がる気配も見せないのであります。おしまい。

'95 東京支部忘年登山・大宴会

三上智津子

「もしもし、市大山岳会の奥田と申します。宴会総幹事・西村の命令でお電話しています。実は忘年山行で雲取山へ行くんですが参加されませんか？」というお誘いにのって行ってきました。イヤー楽しかったこと！ではご報告を！

参加者：７名（山本勝・伴明・山田裕敏・兵頭渉・西村正男・柴原勝・三上智津子）

集　合：11月25日（土）９時30分 ＪＲ八王子駅

食糧買出し：八王子市内のスーパーへ。７人分でいくらかかったと思います？何と３万６千円！ダンボール箱４つに分けて入れ、２台の車に積み込む。林道終点までは車で行けるので今日の歩程はせいぜい20～30分。まあかついでもタカがしれてる・・・と。山でこんな豪華な食事始めて！

林　道：全長９kmの林道をちょっと入った所で［車両通行止］の大きな看板。しかし２台の車は気が付かずにそのまま突破。しばらく行くと又、［通行止］の看板。もちろんこれも見落として通過。又しばらく行くと今度は［通行止］と［工事中］両方の看板、そしてダンプ。これは目に入ってしまった。作業しているおじさんが「林道終点まで男の足で30分てとこだな」。「ま、仕方ない、30分なら歩くか」と強行突破をあきらめ、車から荷物やダンボール箱をおろして出発。宴会用大テントその他一式30kg超を背負子にくくりつけた兵頭さんの頼もしいこと！短パンが似合っている。
１時間歩いたが林道はまだ延々と続いている。ダンボール箱の持ちにくいこと！この頃から強行突破しなかったことを悔やみはじめる。それからしばらくして［三条の湯まで１時間］の標識。「えっウソ！」結局、本日の歩程20～30分のはずが２時間20分。でも大量の食糧を消費する為には「この位の運動量がちょうど良かった」と皆で負け惜しみ。三条の湯キャンプ場到着15時30分。

大宴会：16時より兵頭さんの担ぎあげてくれた快適なソフトハウス（オートキャンプ用テント）内にて宴会開始。山のような食糧、飲み物が見事に消えてゆく。ほろ酔い加減になったところでいったん休憩－入浴タイム。なかなか良い温泉でした。ただし混浴ではありません、念のため！もちろん石鹸、シャンプーは使用禁止。中断30分のみで即、再開。そして誰かが歌った「エーデルワイス」から火が付いてしまい大合唱の始まり。全員出せるだけの蛮声（注：声はでかいが決してうまくはない！）を張りあげて次から次へ出るわ出るわ、特に伴さんと山田さんのレパートリーの広さにただただアゼン！数十メートルしか離れていない他のテントや上の方にある山小屋から文句がでないか心配になってくる。そして21時頃テント入口で「すみません」という声。そら来た！静かにしてくれと言いに来たんだと皆、一瞬シーン。ところがその声の主が続けた「良い歌を聞かせていただきましたので、お礼に差し入れを持って参りました」と。もちろんその飛び入り３人も加わり益々盛り上がったことは言うまでもありません。
そして22時少し前、突然テント入口で拡声器が怒鳴った。「他の方々の迷惑になります。そろそろ終わりにして下さい！」。肉声ではとても歯が立たないと思ったのでしょう。わざわざ小屋から拡声器持参で降りて来たらしい。ご苦労様！全員すごすごと小屋に戻って就寝。まだまだ歌い足りなさそうな伴さんでしたが・・・・
翌朝７時頃起きだし、皆で小屋からテント場まで降りてゆくと何と兵頭コック長が昨夜の宴会の後片付けをすでに終え、皆の為に雑煮を作ってくれている。豪華な海鮮雑煮、おいしかった！

山　行：７時45分小屋を出発。山本さんがトップで快適にとばす。１ヶ月前5,300mまで登ってきたとのことなのでまだ赤血球が増加したままらしい。結局コースタイム３時間のところ休憩を除けば２時間で登ってしまったことになる。確か62才ですよね？でもそれについていった我々６人だって、四捨五入すれば全員50才（45～54才？）ですよ！この調子でいけばあと20年は現役ですね。東京都の最高峰2,017ｍの頂上で記念撮影。なんでも証拠写真と、この報告書で会から山行補助金？が出るとか・・・・霧氷で飾られた樹のこずえから風花がキラキラと舞いおりてきてなんとも幻想的。富士山も見ることができたし最高！大満足で下山。昨夜の温泉で汗を流す。ただし男性のみ、

女性用は沸かしていないとのことで、ガッカリ。皆が親切に「良いよ！一緒に入ろうよ！」と言って下さったが、丁重にお断りして外でひとり、日向ぼっこをしながら待つ。昼食（高級カップラーメン！）後、テント撤収。
またまたゴミのいっぱい詰まったダンボール箱をぶら下げ、車まで2時間余の林道歩き。青梅駅で解散。18時。
運転手の山本さん、兵頭さん、総幹事の西村さん本当にお世話になりました。ありがとうございました。

「カンジロバ登山を語る会」
第3回初登頂大いに語ろう会

奥田　寛

日　時：平成7年11月23日　正午～午後3時
場　所：「フロンティアクラブ」（大阪国際交流センターホテルB1）
参加者：泉夫人、後藤ファミリー、池永会長、大橋名誉顧問、藤本幹事長、大倉、浅部、山辻夫妻、伴、岡本、常慶、佐藤、諏訪、奥田、沢井、広瀬、大島、沢田、和田、水江、竹中

ゲストとして故泉隆次郎夫人、故後藤昌行君(隊員)ファミリーの出席を得て、総勢25名の集まりとなりました。久しぶりに当時を振り返るとともに、最近のネパール事情やトレッキングを紹介してもらい、楽しく賑やかに一時を過ごしました。

当時の8ミリフィルム（音声なし）をビデオ鑑賞しましたが、沢井隊員は解説を買って出て、その抜群の記憶力により四半世紀前の世界を生き生きと蘇らせてくれたものです。

しゃべって食べて飲んで、アッという間に予定の時間になり、最後に市大逍遥歌を歌って散会しました。
会長はじめ万障お繰り合わせ参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。（なお、最近のネパール事情、トレッキングの内容は本ニュースに掲載しました。ご覧下さい。）

日本山岳会主催の大学山岳部監督会議に参加して

奥田尚志

日　時：1995年11月18日 14:00～17:30
場　所：渋谷区全理研ビル
主　催：日本山岳会青年部

講演1：「利尻岳遭難事故」
明治大学山岳部前監督　斉藤　伸

明治大学山岳部の1991年度冬山合宿、利尻岳遭難事故についての報告。
1991年、年末に東稜三角岩峰基部で、雪庇の崩壊による雪崩に巻き込まれて、ＣＬの４年１人と３年の１人が沢に滑落した。ＣＬの１人は、自力ではいだして下まで降り、また登り返して、東稜上のあと２人の別動隊と合流し、その時点で３年の１人が行方不明であることを確認し、やっと外部に遭難救助要請をした（この間２日）。

結局、３年の１人は、遭難死しており、その死体を発見する８月11日までの間、16回の捜索隊を組織し、総計451人日、727.5時間を費やした。
その遭難事故の内幕を交えた報告であった。特に亡くなった３年生の父上にとっては、遭難救助要請までの２日間で、すぐに捜索発見していたら、もしかしたら生きていたかもしれない、という思いがあったため、一時は訴訟まで考えたという。そういう事態から理解しあえるようになるまでの地道な努力も報告していた。
反省、教訓
① 学年の途絶があった。多くの退部者がでる状況。そのためもあって、無雪期のトレースをしなかった。
② 初動捜索の遅れ、仕方。
うまくいった点
① 地元（警察、食堂など）に甘えた。
② 遺族との関係。

講演2：「遭難時における監督・コーチの法的責任問題について」提言
愛知学院大学法学部教授、学生部長、山岳部部長　湯浅　道男

法律時報65巻５号に掲載された講演者の投稿記事を中心に講演された。

スポーツ事故でも、学校事故の場合、国家賠償責任があるので、まず損害賠償があり、続いてリーダーの過失が問われる。スポーツの場合は、「しごき」以外には刑事責任は生じることはない。それは、スポーツにはルールが確立しているからである。しかしながら、登山はルールが確立していないため、刑事責任を問われる場合がある。故に、登山はスポーツとして確立しなければならないし、やはりルールも必要であろう。そのためには、事前のトレーニング、準備は必須であり、リズムをもって行う事が大切である。また、特にリーダーは法的責任を問われないように、全力を尽くすべきである。また、被害者が未成年の場合は、民事事件になる確率が高いという事も、付け加えていた。

質疑応答では、やはり２番目の講演の内容や、法的責任についての質問が多かった。

Q1．ＪＡＣ学生部などで、複数の大学の山岳部の人間がパーティーを組んだ場合の遭難の場合の大学は？

A1．共済金があれば、出す。大学の責任は殆ど問われない→リーダーの責任

Q2．遠征などで「誓約書」を提出させたりするが、有効なのか？

A2．「誓約書」には、紛争を予防する以上の効力がない。「誓約書」があっても、過失があれば、責任は問われる。

以下、懇親会での内容を記す。

文部省登山研修所の柳沢さんは、「大学山岳部は、１．（新人を）教育する役目、２．遭難時（緊急時）の対応、という役目を担っていた。しかし、最近この２つの役目を放棄する大学山岳会、山岳部が増えているのは嘆かわしいかぎりである（例えば、遭難時には全て地元の警察に任せっきり等）。ここに集まっている山岳部、ＯＢ会はそういった事がないようにして欲しい。」と言っていた。関西では関西大学を中心に監督会が既に３回行われている。

また、私事ではありますが、懇親会では1982年ＪＡＣボゴダ２峰遠征時の隊員であった、明治大の山本宗彦、愛知学院大の髙村真司の両君に13年ぶりに再会しました。
また、明大山岳部の大西宏君の遺稿集をご遺族からいただきましたので、読了後、市大文庫に送付させていただきます。✐

このマ…クっていつごろどうやってできたんでしょう…

最近のネパール事情　藤本 勇

(1)ネパール通貨の変遷

	US$レート	ネパールルピーレート
1961年	¥360	¥50
1966年	¥360	¥36
1971年	¥308	¥30
1973年	¥265	¥26
1978年		¥16
1995年	¥100	¥2

(2)登山料

	隊員５名まで	７名まで１名増える毎に
Sagarmatha	US$50,000	US$10,000
	隊員９名まで	９名以上１名増える毎に
8000m以上	US$8,000	US$800
8000m-7501m	US$3,000	US$400
7500m-7001m	US$2,000	US$300
7000m-6501m	US$1,500	US$200
6500m以下	US$1,000	US$100

登山料は１ルート、１シーズンについての料金。２ルート（ルートの変更も含む）や２シーズンに渡る許可の場合は、登山料は各々別途に支払う。

(3)トレッキング料

エリア	期　間	トレッキング料
1) Annapuruna, Everest, Jumla-Rara, Langtang, Gorka	最初の４週間 ４週間後	US$ 5/週間 US$10/週間
2) Kanche, Dolpa (lower)	最初の４週間 ４週間後	US$10/週間 US$20/週間
3) Manasulu	12月～８月 ９月～11月	US$75/週間 US$90/週間
4) Mustang	最初の10日 10日後	US$700 US$70/日
5) Upper Dolpa	最初の10日 10日後	US$700 US$70/日

(4)補償及び保険

ネパールでは登山隊は、すべてのネパール雇用員に対して、下記の通り雇用期間中の補償義務が義務づけられている。

リエゾン・オフィサー	20万ルピー
サーダー	15万ルピー
高地シェルパ	10万ルピー
ベースキャンプ要員	5.5万ルピー
ポーター	5万ルピー

補償に対する保険制度あり。ポーター以外は記名式になる。保険料（掛金）は、補償額の１％、補償期間は手続き日より３ヶ月。

(5)登山許可のための申請

現在ネパール観光省では仮申請を受け付けていない。すべて正式申請になる。日本隊の場合は日本山岳協会の推薦状の添付された申請書が日本外務省経由にてネパール観光省に届かなければならない。

(6)チャーター・ヘリコプター

機　種	料　金（１時間）	搭乗人数または積載量
ツィン・オッター	US$1,200	16人（1250kg）
大型ヘリコプター	US$2,200	22人（4000kg）
小型ヘリコプター	US$1,100	3人（240kg）

フライト時間はカトマンズ出発から到着までで計算される。天候などの条件またはパイロットの判断から目的地に到着できない場合も、フライトを開始した場合は料金を支払わなければならない。

(7)日当及び支給装備

規則では現物支給となっている。隊員の使用する装備と同じ質と規定してあるが、新品であれば同程度で可。ただし最近の登山隊は現物支給する隊はほとんど無し。雇用される側は現金の方を希望する。1995年春期の相場は次の通り。

	支給装備代金	ダウラギリ例	日当
リェゾン・オフィサー	US$1,000-1,500	US$1,300	US$5
サーダー	US$1,000-1,200	US$1,200	US$5
高地シェルパ	US$1,000-1,200	US$1,100	US$4
コック	US$850-1,000	US$1,000	US$4
キッチン・ボーイ	US$800-1,000	US$950	US$3
メール・ランナー	US$800-1,000	US$900	US$3

(8)ネパール国内飛行機便

国内線の料金は外国人料金とネパール人料金の２通り。外国人は米ドルで支払い、ネパール人はネパール・ルピーで支払う。荷物は手荷物も含め15kg。

国内の主なフライト料金

	外国人料金	ネパール人料金
KTM/Lukla	US$90	US$25
KTM/Syangboche	US$120	US$50
KTM/Pokhara	US$63	US$30
Pokhara/Jomsom	US$50	US$25
KTM/Jomsom	US$111	US$45
KTM/Tumlingtar	US$44	US$25

KTM：カトマンズ

(9)カトマンズで購入又はレンタルできる物

市内には外国人専用（？）のスーパーマーケットがあり、調味料、日本製のインスタントラーメン、チョコレートなどが購入できる。登山に必要な用具（ハーケン、カラビナ、ザイルなど）も購入できる。しかし質は良くない。また、寝袋、ジャケットなどはレンタルできる。

(10)ネパール入国時の注意

入国時空港や国境にて入国ビザ取得可能。（日本では東京と大阪で取得できる）

15日間・・・US$15、30日間・・・US$25の２種類のビザがある。税関では通常電機製品、パソコン、無線機、ビデオなどのチェックがあり、もしパスポートに詳細を記入された場合は、帰国時にネパール国外に持ち出さないと税金を支払うことになる。出国時の空港税は700ルピー。ネパール・ルピーを用意のこと。

(11)参考：マナン地域のメニュー

1994/95年

単位ネパールルピー

LODGING		SOUP	
DELUXE ROOM	120	VEG.SOUP	40
DOMMITORY BED	30	TOMATO SOUP	45
DOUBLE ROOM	100	POTATO SOUP	40
HOT WATER/TIN	20	CHICKEN SOUP	40
		NOODLES	40
RICE		NOODLES	
RICE+DAL+VEG.	60	BOILED NOODLES	40
PLAIN RICE	35	FRIED NOODLES	45
FRIED RICE	45	VEG.FRIED NOODLES	50
VEG.FRIED RICE	50	POTATOS	
EGG FRIED RICE	60	BOILED POTATOS	25
HOT DRINKS		FRIED POTATOS	35
BLACK TEA	6	EGG FRIED POTATOS	50
LEMON TEA	11	POTATO CHIPS	50
MILK TEA	10	MACARONI	
BLACK COFFEE	10	PLAIN MACARONI	40
BREAD		FRIED MACARONI	45
CHAPPATI	10	PORRIDGE	
TIBETAN BREAD	25	OAT PORRIDGE	40
PANCAKE	25	CHAMPA PORRIDGE	30
EGG		DESERTS	
BOILED EGG	30	RICE PUDDING	40
FRIED EGG	35	CUSTARD PUDDING	45
PLAIN OMLETTE	35	CHOCHOLATE PUDDING	55
POTATO OMLETTE	40		
VEG.OMLETTE	40		
CURRY		COLD DRINKS	
POTATO CURRY	45	STAR BEER	100
VEG. CURRY	45	OTHER BEER	95
BOILED VEG.	30	COKE/SPRITE	42
FRIED VEG.	40	MINERAL WATER	62

アンナプルナ・アラウンド・トレッキング

浅部禎一

■トレッカー：浅部禎一、JANGBU LAMA（TRANS HIMALAYAN TREK社ガイド）、
KARNA MANN（ポーター、ジャンブー氏の従弟）

■日程概要　：1995年4月12日～5月21日
（正味のトレッキングは4/14～5/14 まで31日間）

月日	曜日	現地天候	コースの概要	タイム
4/12	木	晴	ロイヤルネパール RA412便(13:00) カトマンズイエローパゴダホテル泊	上海で1ｈ給油。カトマンズ空港20時着。時差3時間15分より正味10時間の直行フライト。
4/13	金	晴	今回の日本側ツーリスト、ヒマラヤ観光開発㈱の現地提携先トランスヒマラヤトレッキング社にて、シェルパ、ポーターと打ち合わせ。ネパール暦の大晦日とのことなので、古都バドガウオン（バクタグル）を観光。	バドガウオンは10世紀から旧王宮があった古い街。カトマンズから15km。
4/14 1日目	土	晴	トレッキングスタート。 ツーリスト手配のワゴン車でベシサールへ。途中からバスに乗り継ぎ、ホーチミンルートを行く感じのハードドライブ。 ベシサールはバザール。 ツクチェピークホテル（456R）。	カトマンズ 8:10－ベシサール16:10 （８時間のドライブ） ボテオダーで第１回チェックポイントあり。 ベシサールで第２回チェック。
4/15 2日目	日	晴	歩き始め。 マルシャンディ河沿いの田畑の道を辿り、「丘の上の村」バウンダラへ。バル・ピーパル（菩提樹）の大木が迎えてくれる。 バウンダラのロッジ（300Ｒ）。	ベシサール 7:30－ヌガテイ12:05～13:30－バウンダラ15:30
4/16 3日目	月	晴	マルシャンディ渓谷沿いのトレック。 両岸に滝がかかる渓谷の道。吊り橋多い。 チャムジェは大岸壁に囲まれた宿。 チャムジェのチベッタンホテル（750R、ビール、チャンの飲み代込み）。	バウンダラ7:30－シャンゲ 9:30－ジャガット11:25～12:35－チャムジェ13:35
4/17 4日目	火	晴 夜雷雨	チャムジェからラタマナンへ。 吊り橋と岸壁沿いの渓谷道。タールはチベットムードの宿場村。バカールチャップ（2,164m)を過ぎるとマルシャンディは樹林帯遥か足下のゴルジュ状になる。 ラタマナンは温泉の出るひなびた宿(550R)。	チャムジェ7:15－タール9:15－ダラパニ12:25～14:15－バガールチャップ15:05－ラタマナン16:50 ダラパニにチェックポストあり。
4/18 5日目	水	晴 夜激しい夕立、 月光皎々	ラタマナンからコトへ（休養日）。ピーク29、アンナプルナⅡ峰(7,937m)、ラムジュンヒマールが素晴らしい。コトは典型的なチベッタン宿、チャンで酒盛り（630Ｒ）。	ラタマナン8:50－コト10:40 コトにチェックポストあり。

4/19 6日目	木	晴	コトからチャメー～ピサンへ。 上高地から横尾への道のような松林と草原の心なごむトレッキング。左上部にアンナⅡ峰を仰ぎながら歩く。 バラダンから大スラブ岸壁(600m×300m)を望み、ヒマラヤのスケールに圧倒される。ピサンは風が冷たい。400R。	コト8:00－チャメ8:30－バラダン10:40～12:30－ピサン15:40
4/20 7日目	金	曇 3時頃から小雪	ピサンからマナンへ。 ピサンはチョルテン(仏塔)、メンダン(経文石)等、チベット仏教の表象物が多い。ピサンから峠に登って、遥か北方に広がる雄大な渓谷を見る。 フムデ飛行場が秘密基地のよう。 マナンYAKホテル2泊（590R）。	ピサン7:45－峠8:40－フムデ10:00－ブラガ11:50－マナン12:45 フムデにチェックポストあり。
4/21 8日目	土	快晴	マナンで休養。マナンの景観は素晴らしい。ガンガプルナ(7,455m)の東面グレシャーと氷河湖、北方には貴婦人のようなティリツォピーク(7,134m)、南望すればアンナⅡ、Ⅳ峰の山容が一望千里である。	4/20の降雪で、マナンの石造りの家々も一面雪の下。 終日300㎜望遠レンズで撮影。
4/22 9日目	日	快晴 夜降雪	マナンからトロンペディへ。マルシャンディの最奥部へ。マナンから登った最奥の村落テンギイは展望台の村。アンナⅢ、Ⅳ、ガンガの山容が美しい。景観は荒涼とした砂漠地帯になる。 チュリラタールからトロンペディはマルシャンディの上流ジャーゲンコーラ沿いの高い山腹の水平道。踏み外したら200～300m下の河原まで止まらないだろう。	マナン8:00－ヤクカルカ11:35～13:20－チュリラタール14:05－トロンペディ16:20
4/23 10日目	月	曇 小雪	トロンペディ停滞。 トロンペディは谷奥ドンづまりの宿泊地。夜来の小雪で真白。高度順応と休養日。 2泊760R。	軽い高山病的症状なのか、夜、胸苦しい気持ちになり安眠できなかった。
4/24 11日目	火	快晴 峠は強風	トロンパスからムクチナートへ。 トロンパス(5,416m)へは小屋から30-40分穂高A状のスケールを大きくしたような登りと、あとは5-6ヶ所の雪のザイテングラードの登り4時間。流石に息苦しい。 満60才の誕生日に峠に立って感無量なり。360°の眺望、とりわけ西面のダウラ山群と、ムスタンからチベットへ続く空が青い。下りは一気に1,000m以上の下り。 ムクチナート ラニポワ2泊（855R）。	トロンペディ4:30－トロンパス8:45－ムクチナート13:00
4/25 12日目	水	晴	ムクチナート(3,802m)で休養。 ムクチナートはダウラギリⅠ峰やツクチェピークを真正面に望む絶好の地。ヒンズー教とチベット仏教の聖地がボテ・ピパール（山の菩提樹）の林の内にある。	ムクチナートにチェックポストあり。

4/26 13日目	木	晴	ムクチナートからジョムソンへ（下り）。 ムスタン地方につながる黄褐色の荒涼たる山と谷を眼前にして下る。左手にはティリツォの鋭鋒が高さを増す。カリガンダキの広い河原で息ができないような物凄い南風、ジョムソンストームの洗礼を受ける。 ジョムソン空港前のホテル（文字通り）泊。祝杯をあげた(980R)。	ムクチナート8:30－エクレンバッティ（カリガンダキ河原）11:00－ジョムソン14:15 ジョムソンチェックポストで100Rの寄付を要求される。
4/27 14日目	金	晴	ジョムソンからラルジュンへ。 ジョムソンはニルギリ北峰(7,061m)が真正面に聳えている。マルファ～ツクチェはタカリー族の本拠地である。どの家も中庭のある美しい白い石壁造りの村々を下る。ロバの隊商が多い。ラルジュンは広い河原沿いの静かな村。(450R)	ジョムソン8:00－マルファ9:30－ツクチェ13:10－ラルジュン14:15 マルファ～ツクチェは白いリンゴの花の彼方にニルギリとダウラ！峰を望む。
4/28 15日目	土	晴	ラルジュンからガーサへ。 カリガンダキの河辺の見事な桧の林を下る。ダウラ！峰とアンナ！峰を仰ぎ見る「レーテの森」を過ぎて、美しいタカリーの姉妹が切り盛りしているガーサ宿に泊まる(463R)。	ラルジュン7:50－カロパニ9:50－レテ10:10－ガーサ13:50
4/29 16日目 ～ 4/30 17日目	日 月	晴 晴	ガーサからタトパニへ。 日本の黒部源流を歩いているような、しかし、あくまでも広い谷間の林をカリガンダキの流れに沿って下る。ダーナはレモンとミカンの産地。谷間の温泉タトパニで2泊（2泊1100R）。 タトパニの河原から、上流の谷間の中空にニルギリが浮かぶように幻想的な姿を見せる。	ガーサ7:50－ダーナ10:50－タトパニ13:35 タトパニはいかにも渓流沿いの湯治場のような村。 チェックポストがある。
5/1 18日目	火	晴	タトパニからゴレパニへの登り。 1日コースだがゆっくりして途中のチットレイ(2,300m)に泊まる。ダウラ！峰を正面に見る。ダウラ展望の地。 石楠花の大木はまだ花が残っており、全く見事な花の森の宿(300R)。	タトパニ6:50－シーカ10:35－チットレイ14:30
5/2 19日目	水	晴	ゴレパニ～プーンヒル。 ゴレパニ(2,853m)まで一登り。ゴールデンウイークのためか日本人の団体トレッカーの人達が一杯だ。夜は土地の人達のアマダンスを見る（団体客に便乗)(428R)。	チットレイ8:20－ゴレパニ9:20 プーンヒルへは約30分だが結構きつい登り。 ゴレパニにチェックポストあり。
5/3 20日目 ～ 5/4 21日目	木 金	晴	日本人の団体さんは早朝からご来迎登山でニギヤカ。ヒルの頂上の眺めは素晴らしい。とりわけダウラギリの巨大な岩塊のような雄姿には圧倒される。マチャプチャレの背後から太陽が登る。喧噪から逃れてタダパニ(2,500m)へ。ここで1日骨休めをする。タダパニにも岩手県からのトレッキングパーティ22名の方々が登ってきて大騒ぎ。ここでもアマダンスを見せてもらった。(2泊1080R)	ゴレパニ8:00－デオラリ9:35－タダパニ13:25 5/4　休養

5/5 22日目	土	晴	タダバニからチョムロン(1,951m)へ。 アンナ内院へチョムロンへの下り。ロッジ下の林の内の道で迷わないことが大切だ（迷いそうな道）。 チョムロンはヒュウチュリを背負っているような村。キャプテンロッジ泊(555R)。	タダバニ8:35－グルジュン10:40－チョムロン14:15
5/6 23日目	日	晴	チョムロンからドーバン(2,606m)へ。 チョムロンはアンナ内院の入口であり、通常の村落としては最奥。グルカ族の村でキャプテンとは退役グルカ将校のロッジのこと。 ドーバンは谷間のロッジ(535R)。	チョムロン7:40－クルデカール11:00－バンブーホテル11:40－ドーバン14:20 クルデカールにはA-CAPのチェックポストあり。 バンブーホテルはホテルの名にあらず、ただの竹藪の土地。
5/7 24日目	月	晴	ドーバンからマチャプチャレBC(3,150m)へ。モディコーラの広い河原を行く。ガレ場の上下でかなり歩きにくい登り。積雪期に雪崩遭難事故があったとのこと。涸沢への登りのスケールの大きいもの…みたい。（420R）	ドーバン7:30－ヒンクの岩小屋9:50－デウラリ10:45－マチャプチャレBC14:00
5/8 25日目	火	晴 14時頃から雪 急激に気温下がる	マチャプチャレBCからアンナプルナBC(4,130m)へ。MBCからABCへはスケールの大きな広いカール状の谷のザイテングラード（アブレーション・バレー）を登る。MBCから見るアンナ南峰(7,219m)とファング峰(7,647m)の尾根が美しい。マチャプチャレは三角錐の鋭鋒。ABCから断壁ごとに望むアンナプルナ南壁とその足下のグレシャーの景観は、ちょっと怖くなるような文字通りのサンクチュアリである。早朝、頂から次々に南壁を照らして下るモルゲンロートの荘厳さにはただ圧倒される。ABCではククリブランデーを3本も空にしてアンナパーティをする（825R）。	MBC8:30－ABC10:00
5/9 26日目	水	晴、午後3時頃～5時までかなりの雨	ドーバンへ下る。 ロキシィ3本を空ける。文字通りドリンキングトレッキングになってしまった（910R）。	ABC7:10－ドーバン11:40
5/10 27日目	木	晴 午後曇	ドーバンからチョムロンへ。 だんだん午後天候が崩れ始めた。チョムロンはインターナショナルロッジへ（482R）。	ドーバン8:40－チョムロン12:20
5/11 28日目	金	晴	チョムロンからガンドルン(1,939m)へ。 モディコーラの支流の谷へいったん下って登る。かなりきつい登り。ガンドルンはグルン族の大きな村でロッジも多い。 ホテルMILAN (652R)	チョムロン8:00－キムロンコーラ(河原)9:50－キムロン(ヒルトップ)11:05－ガンドルン12:00

5/12 29日目	土	晴	ガンドルンよりトルカへ。 モディコーラの谷底へ下って対岸のランドルングの村(1,646m)へ登り直す。スケールの大きい谷渡りのお疲れさまコース。耕して天に至る、谷両側の村々をたどる。 HIRA LODGE (453R)	ガンドルン8:00－モディコーラ吊橋9:00－ランドルング9:45－トルカ11:40
5/13 30日目	日	晴後曇 10時頃から山々は雲の内	トルカよりダンプス（1,799m)。 歩き始めて1ヶ月、山旅も最後の高地ダンプスへ。林の中ではヒル（ズーカ）が出始めた。 (570R)	トルカ7:50－ポタナ10:00－ダンプス11:30
5/14 31日目	月	曇後晴	今回のトレッキングで初めて朝から天候がグズつく。マチャプチャレは早朝一瞬見えただけ。ダンプスから自動車路のフェディまで一気に下る。「今日が最後」と思うと何だか淋しい。タクシー（250R）でポカラへ。	ダンプス9:30－フェディ10:20 タクシーでポカラへ。
5/15～ 21			ポカラ、カトマンズ観光。ニューホテルクリスタルに旅装を解く。	

■経費

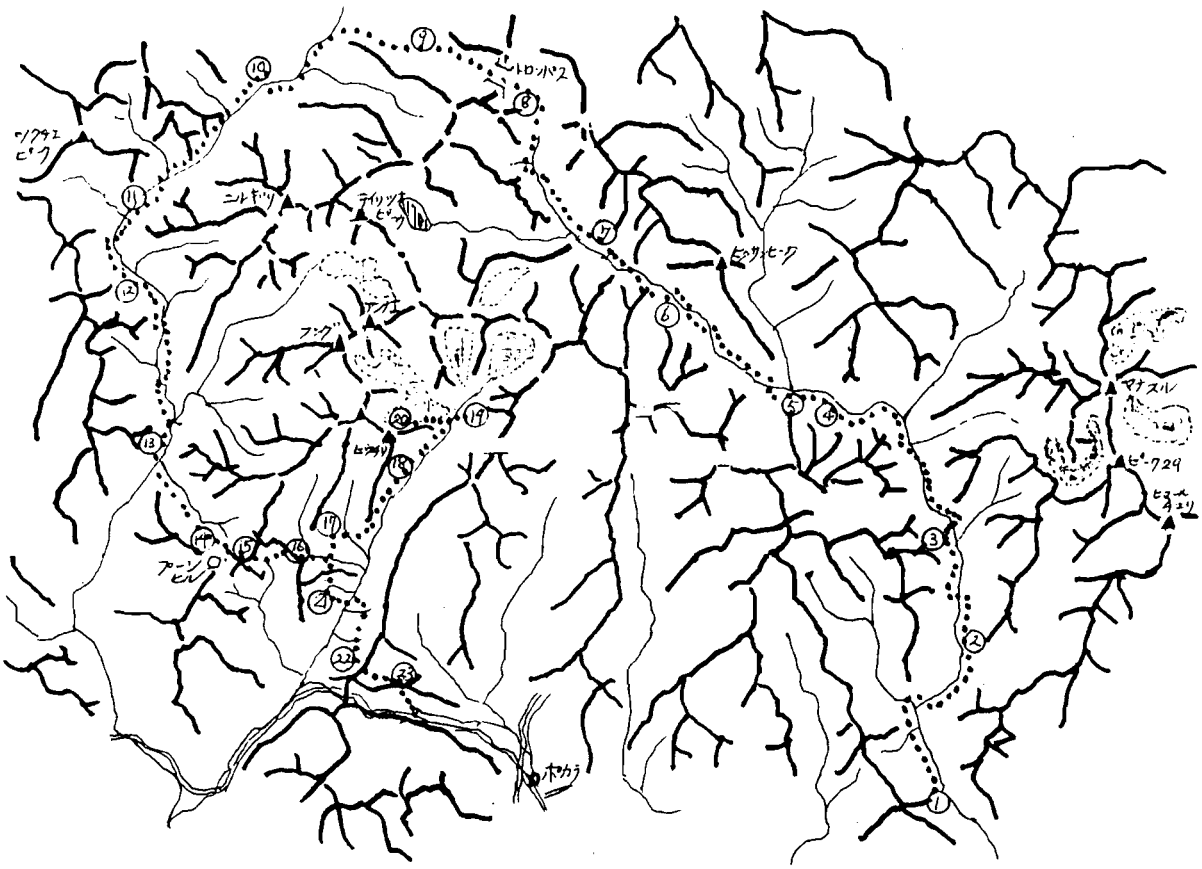
言われる通り旅の仕方で大きく変わるが、今回はツアー会社のスペシャル企画として一人旅をお願いしたので、割高になるのはやむを得ないと思っている。結果的には、団体旅行スタイルのトレッキングでは到底味わい得ない人間的触れあいができたことに満足している。

①◇ロイヤルネパール航空往復（エコノミー）旅券とポカラ～カトマンズ間のエア
◇4/14のポカラ～ベシサール間の車チャーター代
◇4/12～13　カトマンズのホテル　イエローパゴダ宿泊費
◇5/17～20　ポカラ（ニューホテルクリスタル）とカトマンズホテル宿泊費
②シェルパ、ポーター各１名の雇用料
(4/14～5/16)

①②あわせて￥399,000

③トレッキング中各宿泊地での私個人の支出
約15,800R（1R＝￥2として約￥32,000)
④トレッキング中の支出については表内にR表示。
私の場合は「ドリンキングトレッキング」と言ってもいいほど各地のロッジで地酒のチャンやロキシーをシェルパ、ポーターと一緒に楽しんだ。
◇ ビールは谷の入口では80R、奥地では100～110Rくらい（ツボルクかサンミゲル）。これを到着直後平均２本空けた。
◇ チャンは１ポット７～10Rを３ポット、チャンが無いところではロキシー（蒸留酒）１本25～30Rを２～３本のどちらかを空にした。
◇ 表示の支出には１日平均250～300Rの酒代が入っている。あまり大盤振舞いしてはシェルパ、ポーター に良くない前例を残すのでは…と心配したが、炉端で現地の人達とチャンを酌み交わす楽しさはマルシャンディコーラでの旅では最大の、しかもあと数年もすれば消えていくであろう楽しみではないかと思い、あえて「酔いどれトレッキング」を楽しんだ。

Annapurna Himal



① ベシサール
② バウンダラ
③ チャムジェ
④ ラタマナン
⑤ コト
⑥ ピサン
⑦ マナン
⑧ トロンフェディ
⑨ ムクチナート
⑩ ジョムソン
⑪ ラルジュン
⑫ ガーサ
⑬ タトパニ
⑭ チットレイ
⑮ ゴレパニ
⑯ タダパニ
⑰ チョムロン
⑱ ドーバン
⑲ マチャプチャレBC
⑳ アンナプルナBC
㉑ ガンドルン
㉒ トルカ
㉓ ダンプス

会員消息

◆〈会員〉西村信夫氏
平成７年９月２日　ご逝去
〈会友〉今西寿雄氏
平成７年11月15日　ご逝去

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆住所変更

藤本 勇氏　（単身赴任）
《勤務先》　新潟ダイヤモンド電子㈱
〒959-09　新潟県西蒲原郡吉田町
大字鴻洲65-4
☎0256-92-5101
《自　宅》　勤務先に同じ　☎0256-93-5548

丸子隆志氏　（単身赴任）
《勤務先》　㈱トッパンコスモ　中部支店
〒460　名古屋市中区錦134
☎052-211-6034
《自　宅》　〒464 名古屋市千種区今池南17-2
ニューカトレアハイツ1F
☎052-733-4566

武部秀夫氏　（単身赴任）
《勤務先》　㈱ベネッセコーポレーション
辞典学参部
〒206　東京都多摩市落合1-34
☎0423-56-0950
《自　宅》　〒206 東京都稲城市東長沼3111-1
ベネッセ稲城412
☎030-17-16486（携帯電話）

◆伝 言 板

12月5日頃に麦秋社という出版社から『都市よさらば』(¥1480)が出版されます。11人が執筆。トリに私の駄文があります。一読いただければ幸いです。

―― 大森昌也氏　平成7年11月8日付

新 潟 に て

藤本　勇

あの悪夢の阪神大震災から１年が経ちました。

昨年６月に、今まで勤めていた日立化成の系列会社の経営から身を引き、自由な身となり、９月に女房と連れだってNEPALへ１ヶ月のトレッキングを楽しんできました。

カトマンズからジョムソンへ飛行機で飛び、その後は浅部君が昨年の４月に歩いたコースの逆をチンタラチンタラと歩いてきました。その旅行記は彼の手記と重複しますので割愛させていただきます。

10月の市大山岳会の幹事会の後、池永会長にネパールの報告と仕事のことなどを話し合いました。60才で何もせず、日々休日ではボケるのも早いと思い、自分にあった仕事がないものかと相談したところ、池永会長より「わしの新潟の会社へ行って来れへんか」とのこと。この歳で、果たして新しい世界、新しい仕事ができるのかと不安にかられました。

会長は私の心の内を見抜かれたのかして「切符を手配するから、奥さんと一緒に新潟の会社を見てくれや」と言われました。女房ともども一緒に新潟に向かいました。会社を見せていただき、夜は岩室温泉の高島屋という由緒ある旅館に泊めていただきました。温泉の湯に浸っていると、何か勇気が出てきて、チャレンジする気持ちが湧いてきました。

そのようなご縁で11月より「新潟ダイヤモンド電子」という会社に単身赴任しました。今まで日立化成の系列の小企業で長年、会社経営をしてきました。それも営業やサービス関係の会社で、生産現場の仕事は初めてです。毎日が新しい世界の出会いです。ボケる暇などなく、緊張の連続（少しオーバーかな）で、本当によい環境を与えて下さったものと、改めて池永会長に感謝しています。

会社は西蒲原郡吉田町にあって、近くには弥彦神社があります。神社の裏の弥彦山にも、赴任してすぐに登りました。山頂からは佐渡が一望できました。新潟の冬はほとんど毎日鉛色の厚い雲におおわれ、雨、霰、雪の日が多く、日本海に近いため風も強く、冬場は洗濯物を屋外で干すことはできません。しかし、雪がチラつくとうれしくなって一人鼻歌を口ずさむのも、山男の習性でしょうか。また、新潟はさすが米どころ、どこで食べてもおいしい御飯が食べられます。酒の味がわからない者にはもったいないところです。

いつまでも青春を謳歌している元気印の女房は、またまた1月中旬より1ヶ月アフリカへ行きよりました。私はせっかく雪国に来たので、スキーを始めることにしました。

昔現役の頃は、スキーは山に登る時ラッセルのための道具で、滑るための練習はあまりやりませんでした。当時の板は合板のスキーでエッジがビス止めでありました、靴は山とスキーの兼用の革靴で、ビンディングもワイヤーで止めるカンダハー型でした。靴の中で足が遊んでいて、荷重をかけてもスキーに伝わりにくい品物でした。

知人のスポーツ用品店より、板、靴、ビンディング、ストック、ウェアー一式を定価¥200,000の商品を¥50,000で購入しました。勿論すべて新品です。

さっそく新品のスキーを持って、車も新車レガシー（4WDワゴン）で1月13日からの3連休で近くのスキー場に出かけました。新品のスキー靴、板の感覚がわからず、何でもない緩斜面で数回転倒しました。だんだんスキーの滑降感覚が戻ってきても、スタイルがよくありません。私のスキーは誰に習うことなく我流のスキーだったので、午後から勇気を出してスキースクールに入校することにしました。常設のスキースクールは、午前と午後の2回、毎日開講しています。クラスはA（ウェーデルン）、B（パラレルターン）、C（プルークターン）、D（プルークボーゲン）、初級の5つのクラスに分けられています。私はDクラスにおそるおそる入校申し込みをしました。

若いインストラクターが5人の生徒を指導してくれました。60才を過ぎてからの生徒は珍しいとのこと。ストックを持つ手の幅が狭いとか、足はもう少し広げて滑れとか・・・・あっと言う間の2時間。何とか他の生徒さんに迷惑のかからぬ程度に滑ることができました。しかし夜、宿に帰ってから、体のあちこちが痛むのでサロンパスを買って張り付けました。やはり歳ですね。

2日目は昨日のDクラスの指導では物足りぬので、一つ上のCクラスに挑戦。プルークターンの練習。2時間の指導があっと言う間に過ぎました。快晴のスキー場から見る越後の山脈、どっしりとした八海山、駒ヶ岳などを見ていると登高欲をかき立てられたのは、やはり山屋の血がなせるわざでしょうか。

3日目は大金をはたいて個人レッスンを受けようと思っていましたが、朝から雨。仕方なく新潟の下宿に戻りました。これからは、少しでもスキーの腕前を上げるよう頑張りたいと思っています。また、春になれば越後や東北の山々を一つでも多く登ってこようと思っています。

新潟にお越しの折りには、是非お電話を下さい。お待ちしております。昼間☎0256-92-5101、夜間☎0256-93-5548

長々と近況を書きましたが、61才でも何かに絶えず挑戦し続けることで、いつまでも青春を忘れないようにしたいと思っています。

1996年1月17日記✐

【お知らせ】

◇今年の総会は4月21日（日）に開催されます。ぜひお出かけ下さい。
懐かしい顔、いつもの顔が待ってます。

◇池田春次氏、奥田尚志氏より寄贈図書がありました。同封の表にまとめてあります。ご一覧下さい。

編集後記

♣またまた紙面が変わってほんとうに失礼しました。なれないパソコンでやっとできあがりました。次号でまた変わっているかもしれません。当分落ちつくまでご容赦下さいませ。
◆新聞に大峰の大普賢の氷瀑の写真が載り、ダンナは山へ、私はパソコンに向かう。あぁ情けなや。
♠わが家にファックス付電話を置きましたので原稿はファックスでも受け付けます。番号は電話と一緒、事前にお電話なくても可。
♥現役の吉元君。君の文章を読んでOB諸氏が何か誤解されるかされないかはわからないけれども、君自身についての認識はおそらく間違っていないんじゃないかしら。山ではいろいろありがとう。✐　【む】

大阪市立大学山岳会発行
会長：池永薫爾
編集：総務幹事
奥田 寛・矢倉 睦